

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課

担当課長名：服部 卓也

事業名	連続立体交差事業 西日本鉄道天神大牟田線（春日原駅～下大利駅間）		事業区分	連続立体交差	事業主体	福岡県	
起終点	白：福岡県大野城市栄町一丁目 至：福岡県大野城市下大利三丁目			延長	3.3km		
事業概要 福岡都市圏南部の春日市・大野城市地域の南北軸を形成する鉄道路線である西鉄天神大牟田線（春日原駅～下大利駅間）の約3.3km区間を高架化する。12箇所の踏切を除却することで、交通渋滞及び踏切事故を解消するとともに、分断された市街地を一体化することによって土地の利用価値を向上させ、都市の活性化を図る事業である。							
H15年度事業化		H13年度都市計画決定 （H19年度変更）		H15年度用地着手		H23年度工事着手	
全体事業費	742億円		事業進捗率	87%		供用済延長	3.3km
計画交通量	421,486台/日（踏切交通遮断量）						
費用対効果 分析結果	B/C （事業全体） 1.03 （残事業） —	総費用 （残事業）/（事業全体） — / 760 億円 〔事業費：— / 760億円〕 〔維持管理費：— / 0.02億円〕	総便益 （残事業）/（事業全体） — / 781 億円 〔移動時間短縮便益：— / 653億円〕 〔走行経費減少便益：— / 19億円〕 〔交通事故減少便益：— / 34億円〕 〔その他便益：— / 75億円〕	基準年 令和5年			
感度分析の結果 （事業全体）交通量：B/C=0.92～1.13（交通量 ±10%） （残事業）交通量：B/C=—～—（交通量 ±10%） 事業費：B/C=0.93～1.14（事業費 ±10%） 事業費：B/C=—～—（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.02～1.03（事業期間±20%） 事業期間：B/C=—～—（事業期間±20%）							
事業の効果等 ・沿線市街地の活性化や土地利用の変化等による経済効果 ・踏切事故や地震等による踏切遮断の回避 ・踏切騒音の減少など、環境の改善 ・鉄道により分断されていた市街地が一体化されるなど地域のまちづくりに貢献 ※その他便益の詳細は、 <a href="#">福岡県HP</a>							
関係する地方公共団体等の意見 隣接して福岡市が西鉄天神大牟田線（雑餉隈駅付近）連続立体交差事業を施行中であり、令和4年度8月に福岡市事業区間との同時高架切替を実施した。引き続き、令和8年度の事業完了に向けて進める。							
事業評価監視委員会の意見 「事業継続」することは「妥当」である。							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 周辺環境等に特に変化はない。							
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率 100%、事業進捗率 87%							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き、事業完了にむけて進める。							
施設の構造や工法の変更等 現計画で早期完成を目指すことが妥当である。							

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業主体である福岡県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.03と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。踏切が除却されることにより、踏切渋滞や踏切事故の解消が図られるなど、当該事業の必要性、効果は高いものと判断される。以上により、本事業を継続することが妥当であると考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を、割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※